

世界難民地図

世界の難民状況

ヨーロッパ

旧ユーゴスラビアを中心とする西バルカン諸国は、90年代に独立をめぐる激しい紛争が繰り返され、全体で400万人の難民・避難民が発生した。現在は7つの独立国に分離し、08年にモンテネグロ、09年にアルバニアがEU加盟申請をし、13年にクロアチアがEUに加盟した。14年以降、シリアを始めとしてアフガニスタンやイラク等からの大量流入が続いており、15年にはEU諸国において1回目の難民認定申請をした者の数が120万人を超えた。他方で、難民として流入した者の中にテロ事件に関わった者がいたり、難民らによる暴行事件が発生したことにより、受入れを不安視する世論が高まっていることに加え、受入れ国の負担も大きく、難民問題はEU諸国の国内政治にも大きく影響を与えている。

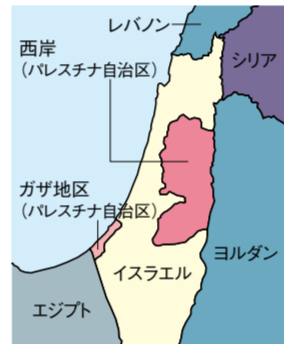
イラク



03年にイラク戦争が終結し、10年3月には総選挙が行われたが、武力による異なる宗派や民族間の対立である内戦状態が続いている。14年に武装勢力「イスラム国 (ISIS/ISIL)」がファルージャを占拠したことにより、新たに大量の避難民が発生し、難民や国内避難民は約490万人に上り、その大半が窮状から抜け出せず貧しい生活を送っているといわれる。

パレスチナ

48年のイスラエル建国宣言に端を発する第一次中東戦争により、多くのパレスチナ人が土地を追われ周辺諸国などに逃れた。その後イスラエル政府は難民の帰還を認めておらず、半世紀以上問題は解決していない。国連パレスチナ難民救済機関 (UNRWA) が支援を始めた50年当時のパレスチナ難民数は約90万人であったが、14年末には西岸、ガザ、ヨルダン、シリア、レバノンで約549万人が難民として登録されている。



アフガニスタン



79年旧ソ連の軍事侵襲をきっかけに難民がアフガニスタンからパキスタンやイランへ流出し、その後の内戦により90年代には600万人を超えた。徐々に帰還が進む中、99年の大干ばつや、01年10月の米・英等によるタリバンに対する軍事行動により、パキスタンに更に約20万人が難民として避難した。02年より難民・避難民の帰還が進んでいるものの、アフガニスタンの情勢不安が続いているおり、パキスタンにはいまだに150万人以上のアフガニスタン難民が避難生活を続けている。また推定約120万人の国内避難民がいる。今もアフガニスタンは難民出身国の上位に位置している。

ミャンマー



ミャンマーはビルマ族の他、多くの少数民族から成る国であるが、軍事政権と対立によって民主化を求める組織のメンバーやカレン、ロヒンギヤなどの少数民族が迫害を受け、周辺諸国などに逃れた。国境近くのタイの難民キャンプには12万人を超えるミャンマー (主にカレン族) 難民が避難している。05年からアメリカなどが、また10年からは日本がこれまで難民の第三国定住による受入れを開始し、16年8月までに105名を受け入れている。

西アフリカ地域



90年代、西アフリカでは利権争い、民族的緊張などのため、内戦が頻りに発生し多くの難民・避難民が流出した。特にリベリアとシエラレオネでは、政権争いから始まった内戦が、外部からの資金や武器によって拍車がかかり大規模な紛争へと発展した。現在は、両国政府と国際社会が平和構築と復興のための努力をしており、難民・避難民の帰還が進んでいる。

スーダン



北部アラブ系イスラム政権と南部アフリカ系キリスト教反政府勢力の争いは21年間続き、約400万人の国内避難民と約55万人の難民が発生した。05年1月に南北包括的和平合意が署名され、11年7月9日南スーダンが独立した。一方、スーダン西部ダルフル地方では、01年に政府系民兵と反政府勢力との間に対立がおき、15年時点で300万人を超える国内避難民がいる。また周辺諸国から30万人を超える難民等が流入している。

南スーダン

11年7月9日南スーダンから分離・独立。独立後、南スーダン政府は、民族・部族を超えた国民国家の形成を目指したが、北部に残る反政府勢力の不満が募り、部族間の襲撃や強盗事件が多発し、国民和解への課題は多く残ったままだった。13年12月、首都ジュバにおいて、大統領警備隊同士の衝突が発生。以降、地方においても多くの国軍兵士が反政府側に回り、政府軍との衝突が激化し、170万人を超える国内避難民が発生している。他方で、スーダンやコンゴ民主共和国等から26万人を超す難民等が流入している。

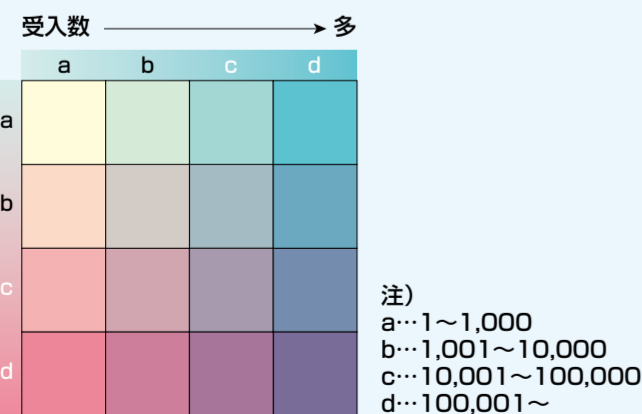
シリア

11年のチュニジアでの反政府デモ、抗議活動を端を発した中東での民主化運動 (「アラブの春」) が波及し、反体制派との武力衝突が起こり内戦状態に陥った。長引く内戦により480万人以上の難民がトルコ、イラク、ヨルダン、レバノンなどの隣国や欧州に逃れ、現在もその数は増え続け、16年7月にはシリアの国内避難民は660万人に上り、難民の受入れは国際的な問題になっている。日本は難民等に対する人道支援・自立支援及び受入国・コミュニティ支援の他、「シリア難民及びホストコミュニティ支援チーム」の派遣を表明している。加えて17年より5年間で最大150名のシリア人留学生の受入れを発表している。

ソマリア



91年に勃発した内戦の長期化により無政府状態が続いており、国内避難民は約40万人、周辺諸国などへ流出した難民は約50万人に達した。00年8月に暫定連邦政府が発足したが、06年から同政府とイスラム法廷連合など反政府勢力の武力衝突が激化した。現在でも110万人を超える国内避難民がいる。



難民数は、UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) Global Trends 2015 および UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) 2015年12月末現在統計による。上記資料に数字がない国は白抜きになっている。